

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：33902

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520723

研究課題名(和文) 第二次世界大戦期における地球規模での華僑の動態と構造研究

研究課題名(英文) On the Worldwide Activities of Overseas' Chinese during the Second World War

研究代表者

菊池 一隆 (KIKUCHI, Kazutaka)

愛知学院大学・文学部・教授

研究者番号：00153049

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円、(間接経費) 1,020,000円

研究成果の概要(和文)：第二次世界大戦期におけるアメリカ、ハワイ、カナダ、および中米の各華僑の動態に焦点を絞って追究した。大戦期における同地域の華僑は不明点が極めて多い。そこで、アメリカ華僑に関しては、サンフランシスコのみならず、ニューヨークの二点から抗日活動を論じた。ハワイに関しては、抗日活動、および日系人との関係を重視した。カナダに関しては、救国団体中の矛盾対立、徴兵との関連などに着目した。これらによって、同時期の北米華僑の抗日活動に関してはほぼ解明できた。なお、中米華僑のみに関しては研究継続中である。

研究成果の概要(英文)：To learn the political activities of Chinese in the Americas and Hawaii during the World War II seems to form an important factor in understanding their anti-Japanese movements in general. Unfortunately, historians have not paid much attention to this field of learning.

I have therefore attempted to present clearer states of their activities. For this purpose, I have focused on Chinese anti-Japanese movements in the United States, especially in San Francisco and New York. I have also revealed Chinese Hawaiians' anti-Japanese movements and their relation to Japanese Hawaiians. As for Chinese in Canada, I have examined their "the save-the-nation" movements, confrontations between them, and the actual conditions of conscripted Chinese.

Through these investigations, I have got an overall perspective of the anti-Japanese movements in North America during the World War II. I have continued a research into the Chinese activities in Central America.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：中国近現代史 第二次世界大戦 中国抗日戦争 太平洋戦争 華僑 救国運動 日貨排斥 日本人移民

## 1. 研究開始当初の背景

(1)華僑研究は歴史、経済、社会学など増大しているにもかかわらず、歴史学についていえば、戦時時期については複雑であり、北米華僑全体としての実態が明らかにされていなかった。そのため、華僑研究の空白期として残されてきた。しかし、この重要時期を除いて、華僑史の全貌は正確に明らかにできないと考えた。

(2)戦時期の北米華僑研究について、アメリカ、ハワイ、カナダ各華僑を抗日動態から解明する。このようにして、解明の終わった日本、台湾、朝鮮、南洋など各華僑研究を前進させ、各国別ではなく、地球規模で華僑の動態を解明する大きな一歩にしようとした。その際、重慶国民政府、南京汪政権の華僑政策、動向、および華僑教育に注意を払う。

(3)戦時期中南米(コスタリカ・パナマ・キューバ)各華僑は重要にもかかわらず、史料不足から研究がほとんどなく、北米華僑を考察する際も看過できない。

## 2. 研究の目的

(1)戦時期中におけるアメリカ華僑を、東海岸のサンフランシスコ、ロサンゼルスのみならず、西海岸のニューヨークを入れ、その媒介としての役割を果たすシカゴに注意を払う。このように二極、もしくは三極から立体的構造的把握に心がける。また、アメリカ華僑による日本品ボイコットや石油・鉄屑の日本への輸出阻止の実態解明をおこなう。

(2)ハワイ華僑の実態と抗日運動を明らかにする。その際、太平洋戦争以前と以後を区分し、それぞれの実態と特色を解明する。また、ハワイは日本人移民が多く、それと華僑との関係に注目し、その特色を導き出す。

(3)カナダ華僑の実態と抗日運動を明らかにする。カナダ華僑はバンクーバー、トロントなどに分散しているため、それぞれの実態を明らかにしながら、統一と融合を考察する。その際、華僑各団体間の対立、矛盾、抗争にも着目する。

(4)華僑学校教育に焦点を絞り、アメリカ、ハワイ、カナダ各華僑教育の実態と特色を明らかにする。これは、統治・ナショナリズムとの関連で看過できない。

(5)戦時期中南米(コスタリカ・パナマ・キューバ)各華僑の実態と抗日活動を明らかにし、北米華僑との関係、関連を考察する。

## 3. 研究の方法

(1)まず従来からの私の日本中心の華僑研究に決着をつけ、新たな段階に踏み出すため、不十分な点や分析不足の点を新たな史料で

補強、推敲を重ね、『戦争と華僑 日本・国民政府公館・傀儡政権・華僑間の政治力学』として出版する。

(2)アメリカ華僑に関してはアメリカのスタンフォード大学ですでに収集した新聞史料を中心に、台湾中央研究院などで史料調査・収集した档案や日本国内の国会図書館、アジア経済研究所、東洋文庫などで収集した史料を用いる。太平洋戦争勃発で区分し、その活動の相違に着目する。それらを梃子に特に戦争末期の状況に不明な点が多いので、重点的に解明する。

(3)ハワイ華僑については、ハワイ大学ハミルトン図書館、州立図書館、華僑街の博物館等で調査・収集する。ハワイ華僑については辛亥革命期、孫文に関する研究は多いので、それらを検討し、その後、いかなる展開を見せたかに着目し、解明を進める。特にハワイは日本人移民の多い地域なので、日系人と華僑との関係を意識しながら研究を進める。

(4)カナダ華僑については、日本における史料等では不足しており、プリティッシュ・コロンビア大学図書館、アジア研究センター、トロント大学中央図書館、華僑街等で調査・収集する。これら进行分析、考証し、解明を進める。カナダの場合、徴兵制との関連も考察する。

(5)コスタリカ、パナマ、およびキューバ各華僑については絶対的に史料が少ないので、各大学、図書館などで史料を調査、収集し、それら进行分析することで、戦時期中南米各華僑の抗日活動の実態を明らかにし、北米華僑との関係、関連を考察する。

(6)日本でも購入できる華僑、戦時期関連書籍、史料集を科研で購入する。

(7)これらを総合的に考察し、戦時期中におけるアメリカ、ハワイ、カナダ、および中南米各華僑の動態と有機的関連を解明する。

## 4. 研究成果

(1)まず、予定通り拙著『戦争と華僑 日本・国民政府公館・傀儡政権・華僑間の政治力学』(汲古書院、2011年、全523頁)として出版した。これにより日本、台湾、朝鮮、南洋(シンガポール、マラヤ)という「大東亜共栄圏」下の華僑動態の全貌を解明し、日本統治下の華僑研究を基本的に終えた。

(2)「戦時期中におけるアメリカ華僑の動態と特質」、「アジア・太平洋戦争とアメリカ華僑の抗日運動」(以下、下記の発表論文を参照されたい)では、サンフランシスコ、ロサンゼルスのみならず、ニューヨーク、中間に位置するシカゴ各華僑動態をとりあげた。そ

して、対日抵抗を国民党系、中国共産党系、および第三勢力系の秘密結社・致公堂をとりあげ、抗日活動の特質、共通性と差異、及びその意義と限界を論じた。

(3)「戦時期におけるハワイ華僑の実態と抗日活動」では、第二次世界大戦期のハワイ華僑をとりあげ、1941年太平洋戦争勃発を境に分けてその抗日活動の華僑動態と特質などに論じた。特にハワイ華僑は島々であるため、華僑各団体同士の武闘はなく、団結力が強かったことを明らかにした。また、日系人と華僑との関係に論及している。

(4)「戦時期におけるカナダ華僑の動態と抗日活動」では、バンクーバー、トロントなどカナダ各地に散在する華僑、および華僑団体がどのような抗日動態を示したかを解明した。その際、華僑各団体の矛盾・対立・勢力争いにまで踏み込んだ。致公堂系も一枚岩とはいえず、旧来の致公堂と若手中心に台頭した新致公堂との指導権争いも解明した。その他、徴兵制に関しては適齢期の青年華僑の動きは鈍かったが、それに応じた少数の青年華僑への評価が高く、差別も残るカナダでの華僑地位向上に貢献した。

(5)華僑学校教育はアメリカ、ハワイ、カナダとも重視し、ナショナリズムや華僑児童の教育レベル向上など実態を解明したが、カナダ華僑学校教育については史料不足から十分に踏み込めなかった。ただしカナダ華僑の大学教育については良質の史料を入手できた。

(6)コスタリカ、パナマ、およびキューバ各華僑については日本で入手できる史料の絶対量が少ないので、コスタリカ、パナマ、キューバに行き、当地の大学教師、留学生などの支援を受け、各大学、図書館、史料館などで史料を調査、収集を実施した。戦時期の中南米各華僑の抗日活動の実態を分析した。

(7)このように、研究計画通りほぼ研究を完遂した。ただ遺憾ながら、戦時期の中米華僑に関しては新研究のため、手こずり、研究継続中である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6 件)

菊池一隆「戦時期におけるカナダ華僑の動態と抗日活動」『愛知学院大学文学部紀要』査読無、第 43 号、2014、pp.1-27.

菊池一隆「戦時期におけるハワイ華僑の実態と抗日活動」『愛知学院大学文学部

紀要』査読無、第 42 号、2013、pp.33-57.

菊池一隆「抗戦時期朝鮮華僑対日本統治由趨奉到抗争的变化」京都大学人文科学研究所編『日本東方学』査読無、第 2 輯、2012、pp91-106.

菊池一隆「戦時期におけるアメリカ華僑の動態と特質」『愛知学院大学文学部紀要』査読無、第 40 号、2011、pp.17-53.

菊池一隆「アジア・太平洋戦争とアメリカ華僑の抗日運動」『歴史学研究』査読無、第 880 号、2011、pp.57-67.

菊池一隆「日本・中国・台湾の高校歴史教科書の相互比較と検討」『愛知学院大学文学部紀要』査読無、第 39 号、2010、pp.29-69.

〔学会発表〕(計 3 件)

菊池一隆「『万宝山・朝鮮事件』の訊問調査・裁判記録からのアプローチ」、国際シンポジウム『多角的観点からみた日中戦争』2014年3月8日、愛知大学

菊池一隆「台湾北部タイヤル族の戦中戦後」、国際シンポジウム(愛知大学主催)『近代台湾の経済社会変遷』2012年8月5日、愛知大学

菊池一隆「台湾原住民から見るアジア・太平洋戦争」、中国現代史研究会シンポジウム、2012年3月16日、金山プラザホテル(名古屋)

〔図書〕(計 2 件)

菊池一隆、法律文化社『東アジア歴史教科書問題の構図』、2013年、全 376 頁。

菊池一隆、汲古書院『戦争と華僑』、2011年、全 523 頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：

番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

- (1) 研究代表者  
    菊池 一隆 (KIKUCHI, Kazutaka)  
    愛知学院大学・文学部・教授
- (2) 研究分担者 無
- (3) 連携研究者 無